

## 1. 巻頭言

東北大学サイバーサイエンスセンターの平成 24 年度の運営と諸活動をまとめた年報をお届けします。私どもの活動に対する皆様から忌憚ないご意見をお願い申し上げます。

平成 24 年度は、

- 1) 東北大学情報化推進アクションプランに基づく全学情報基盤整備・高度化への積極的な貢献、
- 2) 高性能計算に関する全国共同利用・共同研究拠点としてさらなる機能強化、
- 3) センターの特徴を生かした研究・教育・社会貢献の推進、

を柱に取り組んで参りました。

全学情報基盤整備については、平成 24 年度が平成 20 年度から開始された情報基盤整備計画である「東北大学情報化推進アクションプラン」の最終年度であることから、計画にあげられている 4 つの重点施策「全学ネットワークシステムの計画的整備」、「全学統合認証システムの構築」、「東北大学ポータルシステムの構築とグループウェアによる業務効率化」、及び「業務システムの計画的整備」の確実な実施と共に、これまでの 5 カ年（平成 20 年度～平成 24 年度）にわたる整備項目を総括・点検し、平成 25 年度以降の情報化推進に向けて、大学全体として具体的にどのような整備をどの程度実施すべきかの検討も行いました。

また高性能計算に関する取り組みとしては、学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点として、他の基盤センターと連携して、全国の研究者と 35 課題（うち 6 課題が東北大学サイバーサイエンスセンターとの共同研究課題）の学際的な共同研究を実施しました。さらに、シンポジウムを開催するなど、本拠点活動は計算科学と計算機科学の学際的な融合研究を促進する場として重要な役割を果たしております。一方、「京」を中心とする我が国全体のスーパーコンピュータ利用環境の高度化に向けて、HPCI 資源提供機関として HPCI システムの構築を行い、これにより平成 24 年 9 月から「京」と情報基盤センターのスーパーコンピュータ資源への統一的利用やデータ共有が可能になりました。現在、13 の HPCI 採択課題（うち 2 課題が企業による課題）が HPCI システムを使ってサイバーサイエンスセンターのスーパーコンピュータを利用しています。

大学院・学部教育に関しては、東北大学大学院情報科学研究科、大学院工学研究科、大学院医工学研究科の協力講座として大学院生を受け入れ、大学院教育に従事するとともに、工学部の兼務教員として、講義担当や卒業研究の指導に従事しています。さらに、3 つのグローバル COE プログラム「新世紀世界の成長焦点に築くナノ医工学拠点」、「流動ダイナミクス知の融合教育研究世界拠点」、「情報エレクトロニクスシステム教育研

究拠点」や、組織的な大学院教育改革推進プログラム「メディカルバイオエレクトロニクス教育拠点」、「アジア人財資金構想」高度留学生育成事業、「情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業」などに参画し、高度大学院教育にも貢献しています。

社会貢献に関しては、「分散コンピュータ博物館の整備・一般公開」や「中学生のためのコンピュータグラフィックス講座」などを継続して実施し、加えて今年は 1000 名を超える見学者がオープンキャンパスでセンターを訪れました。さらに「東北大学サイエンスカフェ」の実施においては、サイバーサイエンスセンターがコーディネータおよび WG メンバーとして積極的に参加し、企画・広報・運営の中心的な役割を果たしています。

高度情報基盤の整備・運用、研究・開発、そして大学院研究科の協力講座としての学生教育と多くの役割を求められるサイバーサイエンスセンターですが、皆様のご期待に応えられるようセンターの教職員一同一丸となって取り組んで参りたいと思います。今後とも当センターの活動に対する皆様のご理解とご協力、そしてご支援を賜りますようお願い申し上げます。

サイバーサイエンスセンター  
センター長 小林広明